**■科目名**

基礎看護学概論

**■授業の目的**

看護の概念や歴史的背景、専門職としての役割や倫理、法制度など、看護の基盤となる内容を理解し、看護実践に向けた基礎的視点を養う。

**■到達目標**

* 看護の定義や成り立ち、理論的背景を説明できる。
* 看護の基本的役割や専門性、倫理的視点について理解できる。
* 健康の概念や社会的背景と関連づけて、看護の意義を考察できる。
* 看護師の職務や法的責任について理解し、専門職としての自覚を深めることができる。

**■授業内容（全10回）**

**第1回　看護とは何か**

* 「看護」という言葉の語源と歴史的意味を学ぶ
* 医療職・介護職・看護職の役割の違いを整理する
* 看護の対象（個人・家族・集団・地域）について理解する
* 看護の目的としての「健康の保持・増進、回復、安楽な死」について考察する
* 看護職が果たす役割を、実際の場面（病院・地域・学校等）と関連づけて理解する

**第2回　ナイチンゲールの生涯と看護への貢献**

* ナイチンゲールの人物像と時代背景（ヴィクトリア朝、上流階級の女性像）を知る
* クリミア戦争での看護活動と統計学の活用（「ばらの図」）を学ぶ
* ナイチンゲールの「看護改革」：衛生・環境の重要性と近代看護の創設
* ナイチンゲール看護学校の設立と教育理念
* 現代看護にどのように影響を与えているかを考察する

**第3回　『看護覚え書』にみる看護の原点**

* 『看護覚え書』の目的と構成を確認する
* 「自然治癒力を妨げない援助」の考え方を理解する
* 環境（換気・清潔・音・光・食事）を整える重要性について検討する
* ナイチンゲールが患者に寄り添う姿勢から導き出した看護観を読み解く
* 実習や日常生活援助への応用可能性を考える

**第4回　看護の定義と国際的視点**

* ICNによる看護の定義（2013年版）とその意義を理解する
* 日本看護協会による看護の定義（2003年）を読み取り、キーワードを抽出する
* 定義から読み取れる「看護の本質（人間、環境、健康、看護）」を整理する
* 看護の定義の歴史的変遷と、それに伴う看護実践の変化を考察する
* 看護の定義を用いて「自分にとっての看護とは何か」を言語化する

**第5回　ヘンダーソンの看護論**

* ヘンダーソンが提唱した看護の定義（補助的役割、独立した実践）を解説する
* 14の基本的ニードを具体的に確認し、それぞれに対応する看護援助を考える
* ヘンダーソンのモデルと生活行動（ADL・IADL）との関連性を理解する
* 日常生活援助との接点を踏まえて、実践への応用を考察する
* ケースを通してニード充足の観点から看護を分析するワークを行う

**第6回　看護の基本となるもの**

* 知識・技術・態度・判断力がどのように統合されるかを考察する
* 看護職に必要とされる能力（観察力・洞察力・関係形成能力）を具体的に示す
* 看護過程（アセスメント・計画・実施・評価）の流れと論理的思考の必要性を学ぶ
* 実習前に必要な態度形成（倫理、共感、責任）を振り返る
* シミュレーションや事例から「よい看護とは何か」を考える

**第7回　専門職としての倫理と責任**

* 看護倫理綱領（日本看護協会）を読み解き、基本理念を整理する
* 倫理的ジレンマとは何か：尊厳、自己決定、利益相反の場面を取り上げる
* インフォームド・コンセントの実際と患者の権利
* 看護記録、情報管理における守秘義務と倫理
* 専門職としての責任と説明義務を、事例を通して理解する

**第8回　健康のとらえ方と看護**

* WHOの健康定義をもとに「健康とは何か」を多角的に検討する
* 健康観の変化（病気中心 → QOL重視）と看護の関わり方の変化
* ヘルスプロモーションの概念と看護への活用（一次〜三次予防）
* 健康の社会的決定要因（SDH）と格差の問題を取り上げる
* 「患者の健康観に寄り添う」とはどういうことかを話し合う

**第9回　国民の健康状態と社会の変化**

* 人口構造の変化（高齢化・少子化）と健康問題
* 死因の推移、生活習慣病の増加、健康寿命との関係
* 健康日本21や地域包括ケアシステムなどの政策的背景
* 健康格差や社会的孤立など、現代の健康課題を統計資料から読み解く
* 看護職が果たすべき公衆衛生的役割を明確にする

**第10回　保健師助産師看護師法と看護師の法的責任**

* 保助看法の制定背景と構成（免許、業務、守秘義務等）を確認する
* 看護師・准看護師・保健師・助産師の資格と職務の違いを理解する
* 医師の指示下における看護師の業務範囲と責任
* 医療事故や過失、看護師の法的責任を事例から学ぶ
* 安全な医療提供体制と法制度の関係について考える